離れていても声と動きでお子さまの様子がわかる

Combi

コンビ センサー付き ベビーモニター Wモニター

ダブル 声と動きの Wモニター

取扱説明書

このたびはコンビベビーモニター「W(ダブル)モニター」を、お買い求めいただきありがとうございます。ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、本書は大切に保管してください。本品を他のお客様にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡しください。

セット内容：送信機1台　受信機1台　ACアダプター2個（送信機·受信機共通）　取扱説明書（保証書付き）1冊

目　次

本製品の用途

●この製品は、お子さまの声と動きを、離れた所に音と光を通して知らせるものです。
●このベビーモニターはお子さまの月齢や使用場面にあわせ、2つのモード（モニター方式）が選べます。
●一般家庭でのご使用を目的とした製品です。病院などでの業務用にはご使用にならないでください。

	お子さまの月齢や使用場面	おすすめのモード（モニター方式）
①	月齢が早くお子さまが動き出す心配の無い場合など	音声モード（音声のみのモニター）
②	お子さまがハイハイなどで動き出す様になったころなど	動きモード（音声と動きのモニター）

※使用手順では、まず②の「動きモード」（音声と動きのモニター）の手順を説明しています。
①の「音声モード」（音声のみのモニター）の手順は7ページをご覧ください。

主な機能

●離れた所にいるお子さまの様子を声と動きの両方でモニターできます。
●お子さまの動きをとらえるモーションセンサーは暗い所でも動きを感知します。
●お子さまの様子をスピーカーからの音とランプの発光の2つで知らせます。
●受信機は電池でも使用でき、家の中の移動中も携帯できます。
●お子さまの動きをモニターできるので、つかまり立ちやハイハイができるころまで役立ち、音声だけのモニターにくらべ長期間ご使用いただくことができ経済的です。
●お年寄りや病人の在宅介護や、玄関などの人の出入りのチェックにもお使いいただけます。

ご使用上の注意

この製品は、あくまでも保護者の方ご自身がお子さまの安全を見守るうえでの手助けをするものです。
モニター行為は安全を保証するものではありません。

⚠警告（けいこく）

●電源プラグをぬいて、ほこりを定期的に乾いた布でふきとってください。（火災の原因）

⚠注意（ちゅうい）

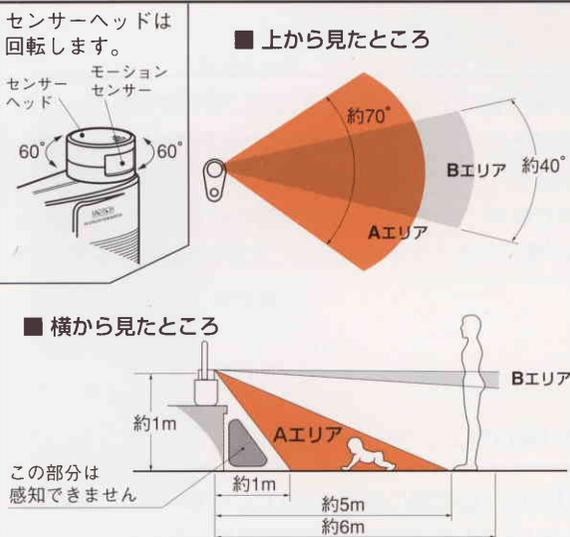
●お子さまの手の届かない所で使うこと。（ケガの原因）
●送信機・受信機は立てた状態でしっかり安定するように設置すること。倒れたり落下したりしてもお子さまにケガのない位置を選ぶこと。（ケガ・故障の原因）
●電源は適正な電気容量の範囲で使用すること。（発火・感電・故障の原因）
●ACアダプターは本体とコードにお子さまの手が届かないように接続すること。コンセントから抜くときは本体を持ってはずすこと。（ケガ・感電事故・故障の原因）
●付属のＡＣアダプター以外は使わないこと。（発火・感電事故・故障の原因）
●防水・防滴・防湿仕様ではありません。水がかかる恐れのある場所や浴室などの極端に湿度の高い場所では使用しないこと。また、ぬれた手では絶対に操作しないこと。（感電事故・故障の原因）
●ほこりの多い所には置かないこと。（故障の原因）
●暖房器具・調理器具などの高温になるものや火気のそばには置かないこと。（製品の変形・故障の原因）
●直射日光のあたる所には置かないこと。（故障・センサーの異常作動・機能しない原因）
●使用条件温度（－5℃～30℃の間）以外では使用しないこと。（故障・センサーの異常作動・機能しない原因）
●自動車内では使用しないこと。（事故・故障の原因）
●スピーカーに直に耳を付けないこと。（聴覚障害の原因）
●落としたり衝撃をあたえたりしないこと。（故障の原因）
●危険ですからむやみに改造や分解はしないこと。（発火・感電事故・故障の原因）
●病院や工場など、近くに精密機器がある場所では、絶対に使用しないこと。（周囲の機器への影響による重大事故の原因）

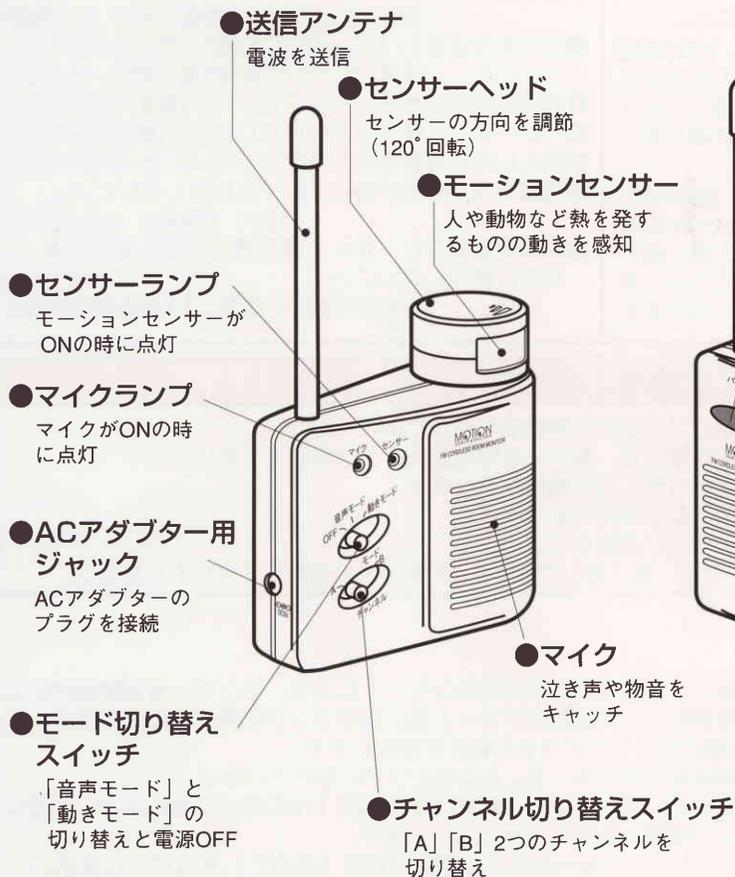
ご使用上の注意

●実際にモニターをする前に、本製品を作動させ、受信可能範囲を必ずご確認ください。
●センサーを使う場合は、実際にセンサーを作動させ、事前に有効範囲を必ずご確認ください。
●受信距離は建物の構造や周囲の環境などにより短くなる場合があります。
●スチールのドア越しや、地下室などでは使えない場合があります。
●受信機を電池で使う場合には、電池切れに十分ご注意ください。
●ACアダプターを抜くときは、電源コードを引っ張らないで必ずACアダプターを持って抜いてください。

モーションセンサーとは

■機　　能：送信機に内臓された、温度の変化に反応する「赤外線センサー」により、センサー有効範囲内に立ち入った人や動物などの動きを感知し、受信機のアラーム音と表示ランプの発光で知らせます。温度感知式なので まっ暗な部屋の中でもお子さまの動きを感知します。

■有効範囲：モーションセンサーの有効範囲は図の様にＡ、Ｂ、2つのエリアに別れています。
●Ａエリアは斜め下方向に広がっていて、センサー自体が床から約１mの高さになるように設置したときに約５m先までの扇型の範囲（約70°）をカバーします。
●Ｂエリアはほぼ水平に広がっていて、約6m先までの扇型の範囲（約40°）をカバーします。

⚠注意（ちゅうい）

●モード切り替えスイッチを「動きモード」に入れてからセンサーが作動し始めるまで約20秒間かかります。
●図のA・Bエリア以外は感知しません。
●図の様に、センサーのすぐ下にある物体（人）には反応しません。
●布団をかぶっていたり、厚いコートなどを着ている人の場合、体温を感知できない為に反応しない場合があります。
●センサーは有効範囲内の環境温度変化を感知するものですが、環境温度がゆっくり変化する場合は感知できないことがあります。
（例えば有効範囲内に人や動物が非常にゆっくりと出入りした場合など。）
●センサー有効範囲内で一度感知した人や動物は、アラーム音が鳴り止んだ後に動かなければセンサーは感知できません。

各部の名称とはたらき

モニターをする前に

⚠注意

●モニター使用時の音声は、電波を使用している関係上、第三者により故意または偶然に受信されるケースも考えられます。モニターを使用しないときには送信、受信ともスイッチをOFFにすることをお勧めします。また、モニター使用により、第三者のプライバシーを侵害するおそれが発生した場合、使用を中止してください。

●はじめてご使用になる場合は、実際にご使用になる環境で音声によって受信可能範囲を必ずご確認ください。

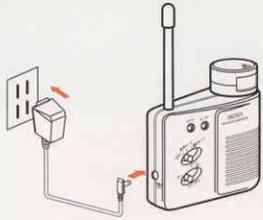
●受信機あるいは送信機がつぎの様な場所にある場合は、電波がさえぎられて受信できない場合がありますので、特に注意して受信状態を確認してください。

- スチール（鉄製）のドアやシャッター越しなど
- スチール（鉄製）の大きな家具（ロッカーなど）の近く
- 地下室やガレージ（車庫）など
- 鉄筋コンクリートの壁や鉄骨に多く囲まれている場所（階段やエレベーターなど）

●次の「使用手順」をお読みになった上で、それにつづく「受信可能範囲の確認方法」にしたがってください。

●送信機の近くにラジオなどを置いて音を出しておけば、お1人でも受信可能範囲の確認ができます。

動きモードの使用手順

1．送信機の設置　お子さまのいる部屋にセッティングします。

① お子さまが、センサー有効範囲に入る様、送信機の置き場所を選びます。
　※**「モーションセンサーとは」**を参照。（2ページ）
② ACアダプター用ジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。
③ ACアダプターをコンセントに差し込みます。

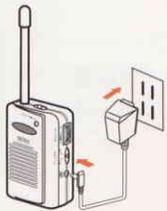
⚠注意
- 本体を立てた状態でしっかり安定するように設置すること。また、倒れたり落下したりしても、お子さまにけがのない位置を選ぶこと。（ケガ・故障の原因）
- ACアダプターとコードにお子さまの手が届かないこと。（ケガ・感電事故の原因）
- 専用のACアダプター以外は使わないこと。（発火・感電事故・故障の原因）

④ チャンネル切り替えスイッチが「A」「B」どちらになっているかを確認します。
　※工場出荷時には、「A」になっています。

⑤ マイク（送信機の前面）が赤ちゃんの方に向くように送信機の向きを調整します。
⑥ センサーヘッドを回転させセンサーの方向を調整します。
　※**「モーションセンサーとは」**を参照。（2ページ）

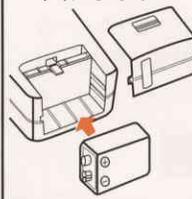
2．受信機の設置　「固定使用」か「携帯使用」かによって手順（電源）が別れます。

※受信機が送信機に近すぎると「ピー」という共鳴音（ハウリング音）がしますので送信機から離れた所で行ないます。
※パワースイッチがOFFになっていることを確認します。

固定使用　コンセントから電源を取ります。

① ACアダプターのプラグを送信機のジャックに差し込み、次にACアダプター本体をコンセントに差し込みます。

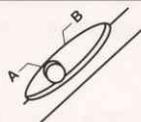
⚠注意
- ACアダプター本体とコードにお子さまの手が届かないこと。（ケガ・感電事故の原因）
- 専用のACアダプター以外は使わないこと。（発火・感電事故・故障の原因）
- 長期間使用しない時は、アダプターをはずしておくこと。（発火・感電事故・故障の原因）

② 本体を立てた状態でモニターする人（お母さまなど）に表示ランプが見える様に設置します。

携帯使用　電池（別売）を使用します。

① ACアダプターがはずれていることを確認し、裏面の電池ぶたを開けて角型9V電池１個（別売）を入れます。　※電池切れにご注意ください。

⚠注意
- 電池ブタを完全に閉じること（ケガ・感電事故の原因）
- 指定の電池以外は使わないこと。（発火・故障の原因）
- 長期間使用しない時は電池を取り出しておくこと。（故障の原因）

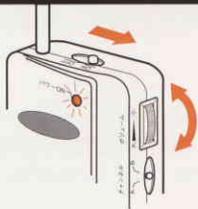
② 裏面のクリップを使い、ベルトなどに付けられます。

③ チャンネル切り替えスイッチを送信機と同じチャンネルにそろえます。

⚠注意
- 受信機のチャンネルが送信機と同じチャンネルになっていないと受信できません。

⚠注意
- 受信機はアンテナが常に縦になる様にして使用すること。アンテナが横になっていると受信感度が悪くなることがあります。

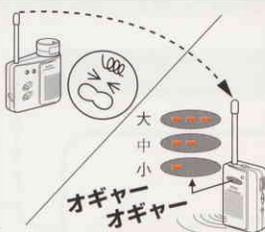
3. 送信機の作動

① モード切り替えスイッチを「動きモード」に入れます。
※このときまずマイクランプのみが点灯しセンサーランプはすぐには点灯しません。センサーは約20秒後に作動し始めますのでその間にセンサー範囲から離れます。
(センサーが作動するとセンサーランプが点灯します。)
※20秒以内にセンサー範囲から離れないと操作している人自身にセンサーが反応してしまいます。その場合、受信機のパワーを入れた時、アラーム音が約15秒間鳴ることがあります。(自動的に鳴り止みます)

4. 受信機の作動

① 受信機のパワースイッチを入れ、パワーONランプの点灯を確認します。
② ボリュームを調節します。

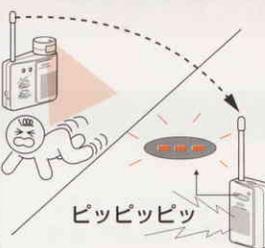
⚠注意
- ●受信状態が悪い時は送信機と受信機の両方のチャンネルを「B」に替えてください。
- ●送信機と受信機が同じチャンネルになっていないと受信できません。
- ●送信機がOFFになっている場合は受信機側で雑音がします。
- ●送信機が「音声モード」か「動きモード」のどちらになっているかは、受信機側ではわかりません。必ず送信機をご確認ください。

動きモードでのモニターがスタートし、お子さまの声と動きを知ることができます。

5. 音声をモニター

■お子さまが泣き出したりすると…

- ●送信機の周辺の音が聞こえるので、お子さまが泣き出したりしてもすぐにわかります。
- ●音の大きさにあわせて表示ランプが点灯します。ランプの数で音の大きさがわかります。
- ●音に加え表示ランプの光でも知らせますので受信機の周辺が騒がしくても気が付きます。

⚠注意
- ●受信機を携帯したまま送信機に近づくとき(お子さまの所へ戻るとき)には受信機のパワーをOFFにしてください。ONのまま近づきますと受信機から「ピー」という共鳴音(ハウリング音)がします。

6. 動きをモニター

■お子さまが動き出したりすると…

- ●お子さまが送信機のセンサー範囲から出ていこうとするとセンサーが感知します。
- ●また、人や動物などがセンサー範囲内に入ったときにもセンサーが感知します。
- ●センサーが反応すると受信機から「ピッピッピッ‥」というアラーム音が鳴ります。
- ●アラームとあわせて表示ランプも点滅します。
- ●アラームと表示ランプの点滅は15秒間続きます。(自動的に鳴り止みます)
- ●アラームとランプの点滅で知らせますので受信機の周辺が騒がしくても気が付きます。
- ●アラームが鳴っている間もあわせて音声が聞こえます。

7. アラームの解除と再セット

① 送信機のモード切り替えスイッチをいったん「音声モード」に戻すとアラームは解除されます。
② 再セットをする場合はモード切り替えスイッチをもう1度「動きモード」にします。

8. モニターの終了

① モニターを終了する場合は送信機と受信機の電源を切ります。
※受信機のみの電源を切っても送信機は作動し続けています。
② 特に受信機を電池でご使用の場合は、ご使用後の電源の切り忘れに十分ご注意ください。

受信可能範囲の確認方法

モニターをする前に、必ず受信可能範囲を確認すること。

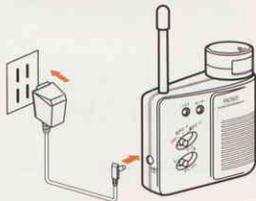
①「動きモードの使用手順」の「1.送信機の設置」と「2.受信機の設置」にしたがって送信機と受信機を実際に使用するそれぞれの場所に設置します。
② お手持ちのラジオなどを送信機の近くに置き音を出します。
③ つぎに「3.送信機の作動」と「4.受信機の作動」にしたがって送信機と受信機をそれぞれ作動させます。
④ 受信機から送信機がとらえたラジオの音が聞こえるかどうかで受信状態の確認をします。
受信状態が悪い時は、送信機と受信機両方のチャンネルを切り替えてみてください。それでも受信状態が良くならない場合は、送信機もしくは受信機の位置を移動してみてください。
注）送信機と受信機が同じチャンネルになっていないと受信できません。
⑤ 受信状態が悪くなると「雑音」が強くなります。「雑音」が少ないもしくは「雑音の無い」場所を確認してご使用ください。
⑥ 受信機を携帯使用する場合は移動が予想されるすべての場所でそれぞれの受信状態の確認をします。
⑦ 以上の手順で、確実に受信していることを確認した場所でのみご使用ください。
また、電池使用する場合は電池が弱くなると受信能力が低下しますのでご注意ください。
⑧ 送信は電波によるものですので、環境によっては「常に雑音」が生じる場合があります。
⑨送信機は電波を発信しますので近くにあるテレビやラジオに影響をおよぼす場合があります。その場合は、下記の処置を行なってください。
①.送信機をテレビやラジオから離す。
②.送信機のACアダプターがテレビやラジオと同じコンセントを使っている場合は別のコンセントに替える。
※上記の処置を行なっても状態が改善されない場合は、お買い求めの販売店または、お客様相談室へご連絡ください。

主な仕様

通信方式：FM電波方式（2チャンネル切り替え機能付き）
見通しの良いところで約80m通信可能
電　　源：送信機　ACアダプター付き
受信機　ACアダプター付き／電池使用可能〔6F22（006P）9V　1個〕別売
サ イ ズ：送信機　幅126×奥行51×高さ123（210）mm（カッコ内はアンテナを含む寸法）200g
受信機　幅　74×奥行42×高さ103（205）mm（カッコ内はアンテナを含む寸法）170g（電池含まず）
主な材質：本　体　ABS樹脂　アンテナチューブ　塩化ビニル樹脂
製品の仕様は改良等のため予告なしに変更することがあります。

コンビ株式会社　お客様相談室／〒339-0025 埼玉県岩槻市釣上新田 271 TEL.(048)797-1000 FAX.(048)798-6109

音声モードの使用手順（音声のみのモニターとして使用する場合）

1．送信機の設置と作動　お子さまのいる部屋にセッティングします。

① お子さまから１～３ｍ程度離れた所（声が聞こえる範囲）に送信機を置きます。
② ACアダプター用ジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。
③ ACアダプターをコンセントに差し込みます。

⚠注意
●本体を立てた状態でしっかり安定するように設置すること。また、倒れたり落下したりしても、お子さまにけがのない位置を選ぶこと。（ケガ・故障の原因）
●ACアダプターとコードにお子さまの手が届かないこと。（ケガ・感電事故の原因）
●付属のACアダプター以外は使わないこと。（発火・感電事故・故障の原因）

④ チャンネル切り替えスイッチが「A」「B」どちらになっているかを確認します。
⑤ マイク（送信機の前面）が赤ちゃんの方に向くように送信機の向きを調整します。

⑥ モード切り替えスイッチを「音声モード」に入れ、マイクランプの点灯を確認します。
※このとき、あやまって「動きモード」に入れてしまった場合は、約15秒以内にスイッチを「音声モード」にもどしてください。

2．受信機の設置と作動　「固定使用」か「携帯使用」かによって手順（電源）が別れます。

※受信機が送信機に近すぎると「ピー」という共鳴音（ハウリング音）がしますので送信機から離れた所で行ないます。
※パワースイッチがOFFになっていることを確認します。

固定使用 コンセントから電源を取ります。

携帯使用 電池（別売）を使用します。

「動きモード」の場合と同じ手順で受信機を設置します。

※4ページの 動きモードの使用手順 の 2.受信機の設置 と 4.受信機の作動 を参照ください。

「音声モード」（音声のみのモニター）がスタートし、お子さまの声を知ることができます。

3．音声のみをモニター

■お子さまが泣き出すと…

●送信機の周辺の音が聞こえるので、お子さまが泣き出したりしてもすぐにわかります。
●音の大きさにあわせて表示ランプが点灯します。ランプの数で音の大きさがわかります。
●音に加え表示ランプの光でも知らせますので受信機の周辺が騒がしくても気が付きます。

⚠注意
●受信機を携帯したまま送信機に近づくとき（お子さまの所へ戻るとき）には受信機のパワーをOFFにしてください。ONのまま近づきますと受信機から「ピー」という共鳴音（ハウリング音）がします。

4．モニターの終了

① モニターを終了する場合は送信機と受信機の電源を切ります。
※受信機のみの電源を切っても送信機は作動し続けています。
② 特に受信機を電池でご使用の場合は、ご使用後の電源の切り忘れに十分ご注意ください。

こんな時には…（故障とお考えになる前に）

	症　状	原　因	処　置
■送信機について			
1	スイッチを音声モードに入れてもランプがつかない。	ACアダプターが正しくつながっていない。	・ACアダプターを正しくつなぐ。
2	スイッチを動きモードに入れ約20秒間たってもランプがつかない。	ACアダプターが正しくつながっていない。	・ACアダプターを正しくつなぐ。
3	センサーが感知しない。	動きモードになっていない。	・スイッチを動きモードに入れる。
	（受信機が反応しない。）	センサーの方向が適正でない。	・センサーの有効範囲を適正にセットする。
■受信機について			
4	スイッチを入れてもランプがつかない。	ACアダプターが正しくつながっていない。	・ACアダプターを正しくつなぐ。
		電池が正しく入っていない。	・電池を正しく入れる。
		電池の残量が少ない。	・新しい電池と交換する。
5	雑音だけして音声がまったく聞こえない（受信できない。）	送信機がOFFになっている。	・送信機を作動させる。
		送信機とチャンネルがあっていない。	・送信機とチャンネルをあわせる。
		受信可能範囲でない。	・受信可能範囲に移動する。
6	雑音がひどい（受信状態が悪い。）	送信機からの電波が弱い。	・チャンネルを切り替える。（送信機もあわせて切り替える。） ・受信場所を移動する。
		電池の残量が少ない。	・新しい電池と交換する。 ・ACアダプターを使う。
7	ボリュームを上げても音が小さい。	送信機の設置場所・向きが悪い。	・送信機の設置場所・向きを変える。
		電池の残量が少ない。	・新しい電池と交換する。 ・ACアダプターを使う。

※上記の「処置」をほどこしても症状が変らない場合はお買い求めの販売店、または、お客さま相談室へご連絡ください。